令和６年度　北六番丁小学校　校内研究計画

１　研究主題，副題

比べて深め，語り合って学びをつなげる児童の育成

～国語科における授業デザインの工夫と効果的な ICT の活用を通して～

２　主題設定の理由

（１）学習指導要領等から

平成 29 年告示の小学校学習指導要領総則では，急激に変化し，予測困難な時代を迎える我が国にあっては，一人一人が持続可能な社会の担い手として，その多様性を原動力とし，質的な豊かさを伴った個人と社会につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。子供たちが様々な変化に積極的に向き合い，他者と協働して課題を解決していくことや，様々な知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと，複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

（２）本校の教育目標から

本校では「心豊かで，豊かな心と確かな学力をもち，生きぬく子供の育成」を教育目標に掲げその具現化に努め，学び方が分かる，課題解決に向かって対話を通して考える，生活や他者と結び付けて学習を発展させることを育てたい資質・能力としている。また，本校の経営の基本の一つに「よりよい未来を実現する授業づくり」を掲げ，個々が活躍し，確かな学力を身に付けさせるための授業展開や ICT 活用(全学級での実物投影機配備や一人一台端末の使用や MESH を使ったプログラミング学習)の実践を重ねてきた。形態が様々でありながらも，対話の重視をし，子供が自ら課題を発見し，考え，主体的に判断して行動し，よりよく問題解決することを目指してきた。

（３）本校の実態から

本校児童においては，主体的に課題と向き合い，解決の方法を粘り強く考えたり，かかわり合いを通して，自他の考えを比べて分析したりすることに課題が見られる。また，一人一台端末の活用が増える中，「何のために，情報機器を使うのか」「得た情報をいつ，どのように扱うのか」という点においては，児童一人一人の判断力を育成してく必要がある。協働型学校評価の到達目標にも「人とかかわる力の育成」を掲げ，自分の考えや思いを伝えることができる子を目指す児童像の一つとしている。今後は更に，ＩＣＴの活用を通して，情報を主体的に取り扱い，「自分の考えの形成」を促すことが重要だと考えられる。

（４）これまでの研究から

本校では２年に渡り道徳科において研究を進めてきたが，これまでの研究を基に，改めて教科指導に立ち戻り学びを深めたいと考えた。特に，「国語科」においては，「正確に理解し，表現する際には，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことの『思考力・判断力・表現力等』のみならず，言葉の特徴や使い方，情報の扱い方，我が国の言語文化に関する『知識及び技能」が必要となる』とある。自分の持つ情報を整理し，話や文章で適切に表現することにつながる「情報の扱い方」に関する「知識及び技能」は国語科において育成すべき重要な資質・能力である。

以上を踏まえ，今年度は国語科において，教師が形態や単元構成などの授業デザインを工夫し，ＩＣＴの効果的な活用をすることを通して，研究を推進していきたい。児童が情報を主体的に取り扱うことができ，児童が他者との考えと比べながら，自分の考えを持って意見を表出でき，言葉をつなげて語り合うことで，考えを深める児童を育てたいと考え，本主題を設定した。

３　研究の基本的な考え方

（1）「比べて深める」とは

児童が，友達の考え，教材，自分の経験と向き合い，自分の考えを比べて，新たな考えを見付けようとしている状態である。

（2）「語り合って学びをつなげている」とは

比べて深めながら，自分の考えはこうだが，他者の考えはどうなのかという思いを持ちながら，伝え合い，聞き合っている，またはそうしようとしている状態と捉える。

研究のねらい

・**比べて深め，語り合って学びをつなげる**児童の育成を通して，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の方法を探る。
・授業デザインと発問の工夫を通して，教員の指導力向上を図る。

5　研究の視点（※この視点の中から選ぶ。）

＜視点＞　授業デザインの工夫と効果的な ICT の活用	
（1）国語科における授業デザインの工夫	（2）効果的なＩＣＴの活用
・めあてと振り返りの設定 ・活動の場の工夫（ペア・グループ） ・単元を貫く「言語活動」 ・音読の工夫	・デジタル教科書，教科書コンテンツの活用（一斉） ・個に応じた学びの場での活用（個別） ・意見交換，発表の場での活用（協動） ・学びの履歴（ロイロノートなど）の蓄積の工夫

6　研究の方法

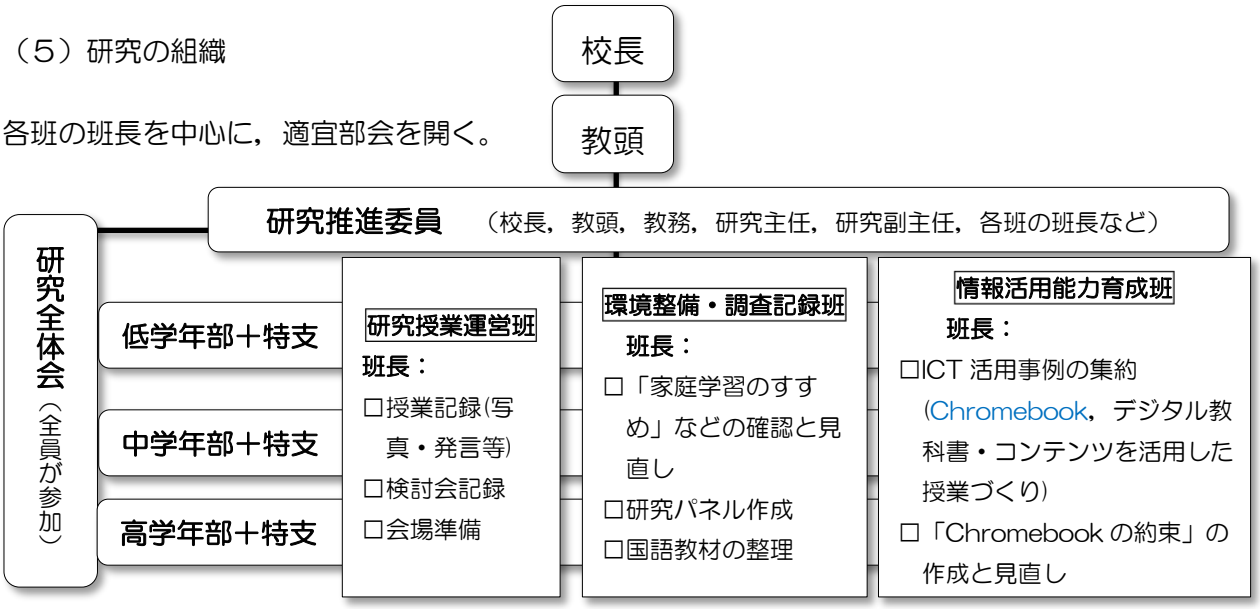
（1）一人一授業・研究の振り返り
　○　一人一回の研究授業を行う。そのうち学年部で決定した代表授業は学年部全員で参観する。
　○　指導案は，本時案＋単元計画（書式１）にまとめる。
　○　授業者の取り組み，研修全体を振り返り，成果と課題をまとめる。（書式２）
　　※模擬授業は授業者＋学年＋研究主任で可能な限り実施

（2）事後検討会
　○　授業後に学年部で事後検討会を行う。（30 分）

５分	授業者自評
10 分	授業についての検討（成果と課題）
５分	意見共有
10 分	まとめ

※外部講師が入る研修では，上記の日程とは異なる場合もある。

（3）研究のまとめかた
　○　今年度の取り組みと各学年の研究の成果と課題を視点に沿ってまとめる。
　○　<u>年度当初にファイルを準備</u>し，各自の指導案と振り返りを綴じ込んでいく。

（5）研究の組織

※各班の班長を中心に，適宜部会を開く。